

地域とともにつづいてUDを進める

セイコーエプソン

セイコーエプソンの機器デザインセンターでは、高齢者や障害のある人への理解を深めるために、県内の福祉施設と交流を深めている。シルバー人材センターに登録している高齢者の方々に参加していただく文字調査や、障害者自立支援センターの協力を得て現状のプリンタの問題点を見つけて出すなど、ユーザーとの交流を通じて製品開発を行っている。その活動について、同社デザイナーの大室誠氏に聞いた。

「実体験のない障害のある人の世界について、どう配慮したらいいのかわかりません。本人に教えてもらうのが一番です」。マイカー生活が一般化している地方では、都会のように日常的な障害のある人との関わりが希薄なため理解しにくい面がある。そこで、自ら飛び込んでいくことが最善の方策と考えた。

「地域の企業ということもあり、皆さんとても協力してくださいます。それに報いるためにも製品を良くしたい」。一方、未来の子どもたちへのUD教育にも取り組み始めた。

地域の中学校では、人権教育の一環としてUDをテーマに講演したり、併設するエプソン情報科学専門学校へ

は、UDを教える非常勤講師を派遣したりしている。

「若い頃の経験がモノづくりに影響すると思います。世の中には自分以外にもいろいろな人がいることを伝えていきます」。

こうした地域密着型の活動により、製品づくりにもその成果が現れている。

「年配の方や視力の弱い方にも、心地良く使っていただきたい。そのために私たちは、操作パネルに表記する文字について、書体の形や文字の詰まり具合、表記する大きさ、背景とのコントラストなどに気を配り、判読性を高めています。特に書体は、白内障などを考慮してぼやけた状態でも読みやすい書体を自社開発しました」。

今後の展開をさらに大室氏に聞いた。「使いやすいを向上させるには、文字の判読性だけでなく、ボタン類の押しやすさや操作手順がより重要です。年配の方にとっては、過去の経験も操作の手助けになります。今後はこのような点に注目し、より心地良い製品にしたいと考えています」。

2003年から製品への展開を始めたエプソンUDフォントは、現在、すべてのエプソン製品に使用されている。



中学校での講演「みんなで生きる社会をめざして」



自立支援センターでのカラリオコピー操作性調査



松本市シルバー人材センターの協力を得て高齢者が必要となる文字の大きさを検証

文字への気配り

高齢者にとっても読みやすい
エプソンUDフォントを使用しています。

EPSON
EXCEED YOUR VISION

セイコーエプソン株式会社

<http://www.epson.jp/>

